

令和3年度 第1回熊本市学校プール再編懇談会

日時：令和3年(2021年)5月26日(水) 14:00~16:30

場所：SPring 熊本花畑町7階会議室

○議事

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶
- 3 関係者紹介
- 4 懇談会趣旨説明
- 5 議事「熊本市学校プール再編懇談会」

○出席者

熊本大学大学院教育学研究科	教授	坂下 玲子
熊本市PTA協議会代表	会長	松島 雄一郎
民間プール運営団体代表	熊本県スイミングクラブ協会副会長	大賀 恵美
民間プール運営団体代表	熊本県スイミングクラブ協会副会長	梶原 純一
熊本市立小学校校長代表	健軍小学校校長	森 恵一
熊本市立中学校校長代表	城西中学校校長	金森 勲
モデル事業候補校校長	飽田南小学校長	松尾 幸治
モデル事業候補校校長	田底小学校長	益永 一幸
モデル事業候補校校長	芳野小学校長	西釜 勝久
モデル事業候補校校長	芳野中学校長	平木 美和
熊本市教育委員会事務局	教育次長	松島 孝司
熊本市教育委員会事務局	教育次長兼学校教育部長	森江 一史
熊本市教育委員会事務局学校施設課	課長	内村 智
熊本市教育委員会事務局指導課	課長	石加 浩二
熊本市教育委員会事務局指導課	教育審議委員	星田 正治
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	嶽下 大輔

熊本市教育委員会事務局指導課

<p>事務局 (概要説明)</p>	<p>まず、プール再編のいきさつを説明する。</p> <p>「熊本市公共施設等総合管理計画」より、今後財政状況の厳しさが増す中で、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化し、長期的な視点で公共施設の更新・統廃合・長寿命化が必要であることから財政負担を軽減・平準化する。また、公共施設等の最適な配置の実現という趣旨があるということを知っていただきたい。</p> <p>計画策定の公共施設を取り巻く背景ということで、今後40年で年平均250億円が公共施設を維持管理、更新していくため必要と試算されている。これまでの更新費用の水準として99億円かかっている。それ以上に157億円以上オーバーしている。</p> <p>また、このグラフは、熊本市の延べ床面積の割合になっている。熊本市の全部の施設がこちらに入っており、学校の教育施設は全体の35%ということで全体の割合の第2位となっている。熊本地震が平成28年にあったことで学校は、避難所としての役割もあり、優先的に修繕してきた。</p> <p>しかし、課題として現状の規模で更新していくことは極めて困難であり、施設の利用状況や地域のバランスを考慮しながら集約や廃止を進めている。これは全国的な流れである。インフラの今後急速な老朽化、財政的制約の中で、適切に維持管理していくという方向性を市長が出している。具体的な目標ということで、公共建築物の総延べ床面積を40年間で20%削減、公共建築物の目標耐用年数を70年という目標を立ててある。</p> <p>そこで、熊本市の教育委員会として面積を40年間で20%削減。そこで市内小学校のプールの見直しを学校規模を考慮し、実施できる小学校から検討し、実施していきたいと考えている。この理由として、プールは学校施設の中でも使用頻度が少ないということ、1年間で約2か月のみ使用という学校が多数。ほとんどの学校が2か月で終了するというのが現状である。プール建設の費用のコストとして、建設費用が約1億5千万円かかるという試算になっている。</p> <p>今後のスケジュールとして本年度はプール再編懇談会による検討。スイミングクラブとの連携、先進地の視察を予定している。令和4年度はモデル事業の開始、その中で実際の課題や成果などを検討しながら、再編計画を決定し、令和5年度に計画が実施、拡充ができるかどうかという事を考えている。</p> <p>1：民間のスイミングクラブとの連携 メリット</p> <ol style="list-style-type: none"> ① プール掃除期間中の水の管理が不要→教職員・児童生徒の負担軽減。 ② 室内であるため、天候や水温に左右されず安心して授業ができる。 ③ インストラクターによる授業の補助。 ④ 監視のための職員配置が不要。 ⑤ バスで送迎を行うことで安全に移動ができる。10分以内。 ⑥ インストラクターの指導方法を学び、教師の指導力向上、児童の泳力向上につながる。 <p>デメリット</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラブとの日程調整や指導内容（役割分担、学習指導要領に則った内容）の調整が必要。 ② 遅刻者、早退者の対応。体調を崩した時の対応などをどうするのか。 ③ 夏休みのプール開放ができない。令和元年度は92校中35校実施。
-----------------------	--

④ 民間クラブなので万が一閉鎖された場合どうなるのか。この後の授業をどうするのか。

～学校での授業、民間クラブでの授業時間について～

学校での授業の場合

授業が終わり、移動や更衣などで約15分ほどかかり、実施時間は25分程度となる。(1時間扱い) 学年によって時間は変わってくると思うが、コロナ禍でもあるので時間にゆとりをもって計算している。

～民間クラブの場合(2時間扱い)～

準備移動で15分、更衣10分としたところ、水泳の授業実施時間は60分となる。民間のクラブで水泳の授業を行っても授業時間は減らないと考えている。学校プールの維持管理のコストを試算した所、水道・薬品代で9200万円、1校につき、100万円ほどかかっている。ろ過機の保守点検などを考えると毎年1校につき125万円ほどかかっている。プール再編した場合の支出として学校が50年間で建て替えを行っているということで、1億5千万を50年間で割ると年間300万円(維持費)、125万円(水道代・薬品代)、合計425万円かかることになる。

民間クラブを使用した場合、年間一人9,000円という試算は、1単位当たり1800円と仮定し、この価格は先進地の情報からだいたい1,800円となる。これには、インストラクターの指導代とバス代を含んでいる。1単位時間1800円×5回で9,000円を試算している。全校児童472名以内であれば、民間のクラブを使用した方が安い。今後、建設費用が高くなったり、子どもの単価自体の高騰など検討しなければならないが472名以内であれば、民間クラブを使用した方がコストはかからないと見込んでいる。

市内の小学校のプールの現状

市内の小学校で今後10年、プールの築年数が50年以上になる学校は18校ある。その中で児童472名以内の学校は14校となる。

472名以内で民間のクラブへの移動が10分以内の学校は8校に絞られる。

事務局

モデル校1

飽田南小学校と流泳館との連携

学校から片道7分である。飽田南小学校の本年度の児童数は218名となる。プールの現状は築年数25年、フェンスの劣化、プール底に黒カビが発生して不衛生である。子どもの安全面での課題がある。そこで連携する流泳館のプールであるが送迎バスの使用が可能、浅いプールがある、インストラクター指導有、午前中なら指導可能、ビート板なども使用可能である。子ども達の安全の確保のためのバスの乗車場所の確保もできる。

モデル校2

田底小学校とマリンスイミングクラブとの連携

クラブまで片道5分の所にある。田底小全校児童102名となる。プールの現状は築40年。プール全体の老朽化。漏水しており、水位が下がる。水位が30センチほどしかない状況であった。老朽化が進んでいる状態。

マリンスイミングは、午前中使用可能。送迎バス可能。インストラクターの指導可能。ビート板などの使用可能。送迎バスの乗車場所も確保している。

2：隣接校同士のプールの利用

メリット

- ① 水の管理やプール掃除が1回。どちらかの学校だけでよい。
- ② 小中連携により中1ギャップをなくす。
- ③ 中学校の教師が授業の補助に入れば、小学校の教師の負担軽減につながる。
- ④ 各校種の指導法を学び合う良い機会になる。
- ⑤ 子ども達の泳力の向上につながる。

デメリット

- ① 学校間での日程調整が必要。雨の場合や、時間割などの調整が難しくなってくる。
- ② 徒歩での移動なので引率が必要。
- ③ プールの水位の調整が小中で必要。オーバーフローでの水質管理ができなくなる。
- ④ どちらかの校種の職員に負担が増す。

モデル校3（芳野小中）

学校間の移動は徒歩で片道3分程度。芳野小の児童数は82名。プールの現状は築52年フェンスが劣化。水槽の老朽化が激しい。芳野中の生徒数は25名。プールの現状は築28年。状態はよい。管理が行き届いている為、年数の割にはとてもきれい。見学者用の屋根や防熱マットなども設置してある。芳野中のプールを共用した場合は中学校の職員に負担が増える。プールの管理や授業時数増などが考えられる。

もし中学校の保健体育の先生が小学校の授業に入った場合、通常保健体育の時間が9時間、総合的な学習の時間等2時間、計週11時間かかることになる。部会などの時間などを含めるともっと時数は多くなるが、仮に11時間として計算し低中高の学年が週3回授業した場合、週20時間となる。市内の保健体育の授業時数の平均18,4時間であるのでそれよりもオーバーしている状況になる。低中高ではなく、1年生～3年生までをくくりとすると6時間となり、週17時間となり、中学校の保体教員の時数は減る。一応、これは案とする。

使用しなくなった学校プールについて他都市の先進校に調査をかけたところ、維持するところ、取り壊すところ、両方あった。維持するメリットとしてスイミングクラブとの連携や共用できなくなった場合、自校で授業が可能である。避難用としてトイレ用水や防火用水として利活用できる。

維持するデメリットとして廃墟化し、教育環境としてふさわしくない。使用しなければ老朽化が進み、使用できなくなる可能性がある。

維持しないメリットとして跡地をグラウンドや駐車場に利活用できる。維持費がかからない。

維持しないデメリットとして連携ができなくなった場合、別の施設までの移動に時間がかかり、学校の負担が増える。プールの撤去費用として250万円ほどかかる。今後のスケジュールとして本年度は3回懇談会を計画している。2回目は8月26日予定だったが、8月27日14:00～に変更する。3回目は10月14日14:00～になっており、先進地視察として6月神戸、岡山、7月神奈川大学、千葉市に行き、モデル授業の方向性を示すことができればと思う。本市のモデルとしては隣接校同士の連携と民間のスイミングクラブ

	と連携した事業が関わってくるのではないかと考えている。
事務局	まずは、モデル事業の担当になっている学校の校長先生方からご意見を願いたい。
松尾委員	心配な点は、この事業が終わったり打ち切りとなった時に、プール使用ができるのか。年数が経てばより難しくなるのではないだろうか。条件付きの事業ではあるかと思うが、児童数が今後増えてくることもあるので、今後プールを撤去し、プール跡地の活用をお願いしたい。掃除は1年間使用してなかったこともあり、子ども達ではなくPTA9名、有志の教員で行った。児童のみでは、1年間使用しなかっただけでも大変でできなかったと感じる。バルブなども劣化が進んでいた。ありがたい事業ではあるが、打ち切りになったり、今後できなくなったりした場合非常に危惧する。水泳は命を守るための授業でもあるので、その視点からも打ち切りになった際や先を見通したプールの管理費用などあるとよい。学校としてメリットは大きいと感じる。
事務局	先生方にこのことについて話をされたか。
松尾委員	プール管理の負担が減るということ、インストラクターの先生の指導が学べることから好意的な意見が多かった。
事務局	全体的に好意的なとらえ方でよろしいか。
松尾委員	もちろん任せっぱなしは駄目。授業であるので、あくまでそれにそったサポートをしていただく形であることを忘れてはならない。
事務局	現在218名であるが、今後児童数が増える可能性はあるのか。
松尾委員	区画整理が進めば、年間30、40人増える予定。今後、児童数が増えるので跡地の利活用をお願いしたい。
益永委員	児童数102人。本年度より田底小に異動し、施設面からみて一番気になったのがプール。柵がさびている。プールサイドやフェンスなどが劣化。水位が低くて常時乾いている場所があり、プールの中が汚く、汚れが落ちるか心配している。メリットが大きいので、よければ本年度から実施したい気持ちがある。1年間だけのモデル校では意味がないので、持続可能な事業であるのかということ。それを実現させてほしい。授業は教師があくまで主体である。そのことを先生方には意識させたい。インストラクターの方と連携を取りながらプラスアルファの効果を出していかれたらと考えている。要望としてこのまま老朽化したプールの維持管理は難しいので、プールは今後撤去していただきたい。
事務局	先生方は好意的に受け止めていただいているのか。
益永委員	学校の職員には説明はしているが議論はしていない。
西釜委員	本校のプールは老朽化しているので、子ども達は気持ちがよいと感じると思う。心配なのは安全面。小学生が中学校のプールを使用するうえで水位の調整

	<p>や水質の維持がなかなか難しいのではないのかと考える。高い所にプールがあるので、オーバーフローをしないと水質が維持できない状況なので、水位を下げた状況で水質を維持するのは難しいと感じる。下駄をはかせるか、思い切って整備をする必要があるのではないかと感じる。浅い、深い場所があると事故につながるのか非常に心配。中学校の保体教師の指導はありがたいが、指導というよりもプラスワンという形でお願いできればと思う。プールがない学校に勤務していた際、近隣校のプールを借りて使用したことがあるが、自校で指導を行っていたので、自校の職員で指導をした方が持続可能ではないかと思う。まずは一部の学年でもよいのではないかと感じる。すべてとなるとなかなか難しいのではないか。来年度、一緒にした場合はそれ以降も続けて欲しい。一緒にした場合はプールは撤去して欲しい。</p>
平木委員	<p>地形的に落ち葉が溜まったりするので、水質維持のためにはオーバーフローは絶対必要。水位調整よりも底上げの板、下駄をはかせて浅くした方がよいと感じる。特別支援学級の生徒も在籍することから、安全面を心配する。本校は生徒数が少ないため、教員の数も少ないが、個々がもっている校務分掌などは非常に多い。小学校に中学校の教員が指導に行くことは、いろいろな教科で年間数時間行っている。低中高と小学校の指導にすべて入るとかなり厳しいかなと感じる。費用面でのこともあるが、非常勤の先生などに来ていただくことが望ましいのではないかと感じる。体育館もとても古く、窓の下は板戸になっており非常に状態がよくない。プールは築28年なので地域の方がどのように感じられるかということがとても気になる。体育館も古く、プールも小中でしか使えない、中学校体育の教員が小学校を教え、その分中学校生徒への教育サービスが低下するという状況になることに対して、小中学校を合わせての教育サービスが低下したという印象を保護者や地域に持たせるのではないかと非常に危惧している。地域や保護者の思いを踏まえて先を見通して行ってほしい。</p>
森委員	<p>感想になるかと思うが、将来的に熊本市のこの事業がどうなっていくのか心配。できる学校は限られてくるのではないか。自分の学校のことを考えてみたが、児童が600人いる。近くの学校を考えてみると尾ノ上小学校まで徒歩10分かかる。他の学校はどうなっていくのかと感じる。民間のプールをすることはとてもよいと感じるが、災害の面で考えるとプールはなくさないで欲しいという意見があった。地震の時プールは本当に役に立った。水の確保にとっても役立った。バスでの移動については、小学校は1年生から6年生までいるので、かなり時間がかかるのではないか。そういう点でも配慮が必要である。60分の水泳授業は小学生にとっては厳しいのではないか。60分行った場合には疲れて他の授業に支障がでてくると感じる。</p>
金森委員	<p>いくつか質問をしたい。 ① スライドの19枚目、民間のプールを使用した場合の一人当たり年間9千円はどういう試算なのか。1単位当たり1,800円は何のお金になるのか。</p>
事務局	<p>インストラクターの指導料とバス代、含め1単位あたり1,800円(教育活動2時間)先進地の方から平均した金額である。1,800円×5単位で(10時間扱い)で9,000円となる。</p>

<p>金森委員</p>	<p>② インストラクターの先生の立場はどのようなものか。ゲストティーチャーという形となるのか。T1は教員がしなければならない。ゲストティーチャーとして技能だけの指導をしていただくのか。プラスワンの形は20年前の事故の和解条件の一つなので、その点の説明をして丁寧に進めていく必要がある。</p> <p>③ バスに乗っている時間はどのような計算になるのか。教室を出てからの10分になるのか。バスに乗ってバスが門を出てからの時間になるのか。実質バスが動いている時間になるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際に時間を計ってみてバス自体に乗っている時間が10分。15分と多めに時間をとっているのは、点呼やトイレの時間などを確保して5分プラスとなるように試算した。低学年や高学年でも時間は違ってくる。</p>
<p>金森委員</p>	<p>④ スイミングスクールや学校間の日程、時間割の調整は誰がするのか。教頭なのか、教務なのか、体育主任なのか。その点では課題が大きいと感じる。</p> <p>⑤ 60分授業は中学生でも無理ではないか。次の授業に支障がでると感じる。</p> <p>⑥ 地域の意見は大切である。調整や理解が必要。私は1校に1つはプールは必要であるのではないかと考える。安全面から考えて、下駄をはかせることは難しいと感じる。事故があった場合、誰の責任になるのか。小さいプール、大きいプール、浅いプール、深いプールが必要。安全に則った指導は難しい。児童の泳力がプールがなくなったことによって今後落ちる可能性があるのではないか。日程や時間割の調整に時間がかかるように感じる。先生方も忙しく年間計画10時間が7時間になったり、15時間が10時になったりすることもあり得る。自分の学校であれば自由に使えるので、私は反対である。</p>
<p>大賀委員</p>	<p>学校の指導なので、私たちはあくまで補助的に入る形になるかと思う。スイミングスクールによって環境はかなり違う。資料に載っている流泳館さんには小プールはあるが、ないところもある。深さもそれぞれのスイミングスクールのプールで違う。水位の調整はスイミングでもかなり難しい。薬の調整も必要になってくる。常に水温30度をキープしているので、一気に冷たい水を入れることで管理上、コスト面でもかなりかかる。午後からの使用という話があったが、それもスイミングで違う。送迎の部分もバスを持っている台数や乗れる人数も違ってくる。一時間で運べる人数も変わってくる。そこでもかなりの調整が必要であると感じる。インストラクターの数や勤務状態もスイミングスクールで違ってくる。プールを貸すだけなのか、インストラクターが入るだけなのか、水泳の授業がなくなることが前提なので私は学校にプールがあった方がよいと感じる。</p>
<p>梶原委員</p>	<p>ほとんど大賀副会長の方で出たので、補足をするとするならば、根本的な枠があるのかということ。現在、保育園でのレッスンの委託を受けているが、毎日入っている。その後、習いにくる子ども達がいるので時間の調整が難しいと感じる。指導者の空き時間との調整も必要。プールの底にもものを入れてとあったが、安全面からはよい。また、バスの移動の際の引率はどうなるのか。いま保育園では、先生に乗ってきてもらっている。学校主体なので、先生方の教育</p>

	<p>のもと私たちが先生のサブという形でというのが一番理想なのかなと思う。試しでやりながら、改良しやっていたらと思う。なかなか今はイメージがわからないところである。現在、うちのプールは2階にプールがあり、通常のビルにしたら3階くらいの建物の高さになる。バスの発着所の場所などクラブによっては離れた所にあるところもあるのではないかな。また、指導者の確保がなかなか難しいのが現状である。</p>
松島委員	<p>財政面やモデル校の先生の話聞いて、メリットもあるが、心配なのは今後続けていけるのかということと地域、保護者の理解が必要であること。問題はたくさんあるので、一つ一つしっかり話していく必要がある。水泳の授業はとても大切であるということは理解している。資料3ページの14のデメリットとして、コロナや事故のことも考えられるので夏休みのプール開放については保護者の理解を得られにくい。難しい課題もたくさんある。子ども達の体力向上についてプール開放に代わるようなことを探しているところである。今までで一番、プール開放は子ども達に還元できることであるので、推進派の方々もいらっしゃる。できる限りやっていきたいという声もある。</p>
坂下委員	<p>大学の中では水泳の授業を経験していない学生もいる。熊本の学生は水泳の授業をしっかり受けてきており、恵まれた環境にある。水泳は命を守る教育として重要である。また、附属特別支援学校での経験ではあるが、特別支援学級校の児童生徒は水泳をとっても楽しみにしている子が多い。水泳の授業の持つ力を強く感じる。日程や指導についての調整を確認していくことが重要である。60分の授業は厳しく感じる。時間も大切であるが、回数を重ねることも重要であると考えている。学びの保証をいかに確保していくかが重要となる。</p>
金森委員	<p>私は長崎大学出身であるが、体育科の学生でさえも泳げない子がいた。プールがなかったから。大学になってやっと泳げるようになったという体育科の学生がいた。今はあると思うが、プールの存在は学校にとってかなり大きいと思う。</p>
平木委員	<p>大学まで水泳を行っていた。以前、城内プールで指導した経験があるがその時は20人程度を1グループで教えていた。初心者は6人程度1グループであったが、今はどのような指導をスイミングではされているのか。泳力があまりない児童生徒に対してどうされているのか知りたい。</p>
大賀委員	<p>小プールがあるところは、10人超えても教えていらっしゃる。うちの場合は3歳からきているので泳げない子は腕に浮袋をつけ、プールフロアを引いた状態で浅くし、10人以下に対して一人で指導をしている。二桁になったらサブコーチを付ける。子どもたちの状況によって指導者を変えている。上手な子は20人から30人での指導をしている。</p>
西釜委員	<p>プールの現状は老朽化が進み、維持は厳しい。今後、整備を進めていってもらいたい。10数年前から芳野小中は運動会を一緒に行っている。小中一貫教育を進めているので、地域の理解はあると思う。日程などの調整は以前からやっているのだから難しいことではない。最終的にはマンパワーでできることだと思うので、他の学校では厳しいのではないかな。</p>

平木委員	水泳をずっとやってきたが、以前は川で泳いでいた。プールはなかったのでできたときには嬉しかったし、泳法をたくさん学んだり、ターンができたりとやれることが増えた。小中学生は経験を積みながら上達していく過程がある。限られた資源の中でも教育効果を上げていかなくてはいけない。
事務局	わが子もスイミングに喘息で通わせていたこともあり、数年ですっかり治った。スイミングの先生からポイントを少し教えていただけても指導のヒントがつかめる。通常クロールから始めることが多いが、背泳ぎからスタートされるのを見たり、腕輪を使ったり、飛込の仕方など目からうろこのことがたくさんあった。もしモデルでやっていただく小学校では、何らかのヒントを得ることで先生方の指導力がぐっと上がってくると考えられる。
益永委員	先生たちが任せっきりにならないということが一番の課題であると思う。水泳の授業は何のためにするのか、いちばんは水に慣れ親しむ。そして泳法かと考える。そのところの指導の目的と内容を把握してからどんな協力があるのかということを考える良い機会かなと考える。 授業時間 60 分は長いので、60 分の 5 回よりも半分の 30 分の 10 回でできるのか。逆に言うとそれも負担になるので、そこらへんも試算もしていただきたい。
事務局	その点についても視察に行って次回お伝えできたらと思う。
松尾委員	水泳の授業に対しての先生方の意識や授業力にも差が若干あるように感じる。はじめは水慣れをしながら段階的な指導、そして着衣水泳を行うという一連の水泳の授業をしていきたい。
梶原委員	日頃スクールの時間は 45 分程度。休憩や自由時間を含め 60 分となる。60 分という時間は小学生で競技会などに出て毎日泳ぐ児童が 60 分である。授業で 60 分という時間は私もちょっと長いかなと感じる。保護者の方は、水泳に対する意識は高く、命を守るため、喘息を治したいなど体力面などから習わせたい習い事 1 位となっている。昨年の 7 月の人吉の水害後にスクールの入会者は増えた。このコロナ禍で水泳を習わせたいという保護者は多い。
事務局	授業時間について課長の方からお願いしたい。 水泳の授業は間違いなく大切で、私は高校の時に「水泳の授業は何のためにするのか。」と聞かれた。「上手に泳ぐため。」なのかと思っていたが、「命を守るため。」と言われそれから今までそういう意識でやってきている。プールはなくても命を守る授業としては、とても大切という考えから動いている。60 分という時間は確かに長いので、例えば、1 コマから 2 コマの間で、2 回で 3 コマというような柔軟な考えでよいのではないかと感じる。年間の授業時数の中でのやりくりをして欲しい。児童生徒にとって安全で効果のある授業を進めていくことが必要。
大賀委員	先ほど、支援の子ども達の話がでたが、私は障がいがあっても水泳はできるという理念で会社を立ち上げた。30 年前から重度の障がいがある子どもにも水泳指導してきた。障がいのある子ども達は、環境や場所が変わると難しいこ

	<p>ともあるし、発達障害の子ども達も今後増えてくると思われる。指導に関しては、経験がものをいうところもあるので、各学校の先生に集まっていただき、講習会をすると先生方の精神面の負担も減るのではないだろうか。水着になりたくない、日に焼けたくないという先生も多いと思う。自分（先生方）に自信がつけばそれが負担を減らせる材料になるのではないかと思うので、参考にさせていただけたらと思う。</p>
事務局	<p>プールの下に沈めるものは、どのようなものか教えて欲しい。 私のイメージからすると下の隙間がかなりある感じがして、そこに入っておぼれ事故につながりそうな印象を受ける。</p>
梶原委員	<p>潜り止め防止というものはある。子ども達の中に潜っていかないようにするものがついている。無理に頭を突っ込めば抜けなくなるので、常にそこには潜らないようにと言っている。無理に潜らなければ大丈夫である。物によって違うが板のようなものである。水深が深いと上がるときに顎を打って怪我をするので、上りやすくするためにも置いている。途中で立つときもそこにあれば呼吸をすることができる。持ち上げなければ浮くことはない。</p>
事務局	<p>学校のプールを使って指導者だけ来てもらうことは可能か。</p>
大賀委員	<p>PTA主催で水泳教室を行ってきた経験があり、現在も一つの学校で行っている。5日間連続で行うとかなり上達していく。それだけでも効果はかなりある。PTAの方からお話をいただいて、私たちが出向いて水泳指導をしている。</p>
事務局	<p>時期的なものはどうなのか。</p>
梶原委員	<p>温水プールを使用しているので、時期はいつでもよい。</p>
事務局	<p>水泳の時期は学校で調整できれば、いつでもよいのではないか。 太宰府では民間に委託しているので、6月から11月くらいまで水泳の授業を行ってきたらしい。デメリットは期間が長くなること。梅雨、真夏に何をさせるのかが学校が困られると思う。</p>
益永委員	<p>水泳シーズンということもあり、評価の関係もあるので、9月までに終了したいという気持ちがある。期間があればあるほど余裕があってできるのではないかと思う。</p>
梶原委員	<p>プールを持ってくることはできないので、スイミングでするのであれば、できるだけ長期間でさせてもらいたい。</p>
事務局	<p>指導者の派遣であれば、芳野小中。学校である場合は6月7月になるかと思う。</p>
西釜委員	<p>命を守るという視点では、海水浴シーズンになる今の時期が望ましいと感じる。</p>
益永委員	<p>プールが防災用という所の機能を果たすのは大きいと思う。皆さんの意見を聞いてどうなのかと考える。防災や地域との兼ね合いを考えると悩ましい所で</p>

事務局	<p>ある。規則的に防災上の観点から設置しなければならないのかということを知りたい。</p> <p>防災上の観点からは学校のプールは火災などでも防災上では利用してもよいということであるが、必ずしも水をためておかなければならないという法律はない。消防局ではそれ以外の水利を確保されている。防災上は使うことができるとなっている。熊本地震の際もほとんどの学校がトイレなどにプールの水が使われた。そういった面でも有効であると思われるが、個人的には防災井戸を別途設置し、固定した方がよいと感じる。プールを維持管理していくよりも防災井戸を作った方がコスト面からもよいのではないのかと思う。防災井戸は電気がなくても稼働できる。地域によって深さが違うので、コスト的に費用はまちまちである。</p>
平木委員	<p>費用的なものを考えたとき、最初は板など底上げの備品の費用のため、コストがかかるが、先を見通すとできれば非常勤講師の先生を充てて欲しい。地域の学習する力が落ちると地域からすればつらいこと。プールはなくなったけど、小中学校でしっかり力をつけてもらっているという確信があればよい。今いる体育の教師をそのまま転用となるとどうもうちだけ損したという気持ちになる。プロフェッショナルな方々がゲストティーチャーとして来ていただくと子ども達もうれしいと思う。</p>
事務局	<p>情報交換ありがとうございました。色々な課題も見えてきたし、やれるんじゃないかという気持ちもある。来年度からモデル授業が始まるが、先生方の声、地域の声も大切にして、情報を集めていただきたいと思う。</p> <p>スイミングスクールの方々も専門的な意見ありがとうございました。ぜひ連携していただき今後も熊本市の子ども達のためによりしくお願いします。できることからやっていきたいと思います。今後ご指導宜しくお願ひします。</p>
事務局	<p>たくさんのご意見をいただきありがたかった。今後の方向性や課題が見えてきた。目的、目標は子ども達の命を守る、泳力をつける。そのための方法をいろいろと模索しているところである。今考えていることは10年後20年後、30年後を見据えて先を見通していく必要があるということ。お金があればいろいろなことができるが、限られた予算の中で子ども達のためには何ができるかということ念頭に置き、進めていきたいと感じる。</p>

6 事務連絡

7 閉会